

平成24年 **10**月**7**日(日) 10:00~16:30

一橋大学 一橋講堂 (東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター内)

予稿集

近年、世界の美術館・博物館・図書館等の虫菌害対策は化学薬剤処置から日常管理を基本とするIPM(Integrated Pest Management: 総合的有害生物管理)へと転換されつつあります。我が国でも、ガス燻蒸に用いる特効薬がオゾン層破壊物質として全廃されたことを機に、化学薬剤だけに頼らない「モノ・ヒト・環境にやさしい」IPMに取り組む館が増えてきました。

本シンポジウムは、こうしたミュージアムIPMを市民と共に進めることが、文化施設のIPM導入を助けることをお伝えしたいと思います。ごく普通のこととしてIPMを支援する市民の輪のひろがりや、文化財保存支援業務に携わる方々の雇用促進・地域活性化にも繋がる可能性を発信いたします。

九州国立博物館は、2005年の開館前から「市民と共に ミュージアムIPM」の研究と実践を続け、2007年度より科学研究費や文化庁受託事業・補助事業の一環として支援者育成研修と本シンポジウムシリーズを5回にわたり開催してまいりました。本年と来年の2回のシンポジウムにより、これまでの事業成果の一部について広くご紹介するものです。

総合司会: 秋山純子(九州国立博物館)

10:00~10:05

開会挨拶 「市民と共に ミュージアムIPM」実行委員会委員長
三輪嘉六 (九州国立博物館館長)

第1部 基調講演

10:05~10:50

我が国におけるIPM導入の現状と課題
IPMコーディネータ資格制度のスタートをふまえて
三浦定俊 ((公財)文化財虫害研究所理事長)

10:50~11:20

海外のミュージアムにおけるIPMの実践状況
木川りか (東京文化財研究所生物科学研究室長)

(休憩)

第2部 IPM支援活動の実践事例

13:00~13:25

愛知県美術館のIPMとその支援活動
長屋菜津子(愛知県美術館)

13:25~13:50

国立民族学博物館におけるIPMの実践とその協力体制
園田直子 (国立民族学博物館)
和高智美 (合同会社文化創造巧芸)

13:50~14:40

九州国立博物館から市民と地域へひろがるIPM支援活動
本田光子 (九州国立博物館)
内田祥乃 (九州国立博物館環境ボランティア)
立山左絵子 (NPO法人ミュージアムIPMサポートセンター)
下川可容子 ((株)タクト)

(休憩)

第3部 パネルディスカッション

14:50~16:25

「ミュージアムIPM」の実践と課題
司会: 本田光子(九州国立博物館)

井上理香(太宰府市文化ふれあい館)・上野知彦(九州国立博物館)・奥村俊久(筑紫野市教育委員会)・狩野啓子(久留米大学)・川越和四(イカリ消毒(株))・川浪千鶴(高知県立美術館)・日高真吾(国立民族学博物館)・松下久子(九州・山口ミュージアム連携事業実行委員会)・三浦定俊((公財)文化財虫害研究所)・村田真宏(愛知県美術館)・森田レイ子(NPO法人文化財保存活用支援センター)

16:25~16:30

閉会挨拶 「市民と共に ミュージアムIPM」実行委員会副委員長
森田 稔 (九州国立博物館副館長)

第1部 基調講演 10:05~11:20

我が国におけるIPM導入の現状と課題
—IPMコーディネータ資格制度のスタートをふまえて—

三浦定俊((公財)文化財虫害研究所理事長)



近年、薬剤を用いるだけでなく適切な環境対策を行うことによって、虫やカビによる被害を防除する IPM の手法が、博物館・図書館等施設の新しい生物被害対策方法として関心を持たれています。しかし一方で IPM を始めようとしても、現場で何から行えばよいのかよくわからないという話も聞きます。ここでは IPM を導入する際によく起こる課題と解決のための考え方についてお話しします。また文化財の IPM では、資料を扱う学芸員・司書の他に、施設の維持管理に係わる人や様々な業務を支援する人・企業など、多くの人々が力を合わせて IPM を進めることが大切です。そこで九州国立博物館の協力を得て昨年度から始まった、文化財虫害研究所の「文化財 IPM コーディネータ資格」についてもお話しします。

プロフィール

東京大学工学部卒業。東京芸術大学大学院修了(保存科学専攻)。東京国立文化財研究所保存科学部長等を経て副所長。2008年定年退職(東京文化財研究所名誉研究員)し、現在、公益財団法人文化財虫害研究所理事長。臭化メチルの2004年末全廃を定めた1997年の第9回モントリオール議定書締約国会議に、文化庁から日本政府代表として出席して、以後、文化財のIPMに取り組んでいる。

海外のミュージアムにおけるIPMの実践状況

木川りか(東京文化財研究所生物科学研究室長)



日本国内において、この10年の間に博物館、美術館などのIPMという考え方があること、またそれを取り入れるべきではないか、という認識は徐々に広まってきました。当初は、それをどのように実践すればよいのか、という部分で悩んでおられる現場も多かったのですが、現在ではたくさんの現場でその館の実状にあわせた生き活きとした活動が展開されています。本日は2011年10月にロンドンで開催された国際会議2011: A Pest Odyssey, 10 Years Laterで発表されていた内容をもとに海外での活動の一端をご紹介します。

プロフィール

福岡県に生まれる。東京大学理学系大学院博士課程修了。1993年より東京国立文化財研究所研究員。現在は独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所保存修復科学センター生物科学研究室長として、文化財の生物劣化の機構と防除法についての研究に取り組んでいる。

愛知県美術館の IPM とその支援活動

長屋菜津子(愛知県美術館)



愛知県美術館の場合、IPM プログラムと、現在それを支援して下さっている外部組織の形成は、まったく別個の土壌から生まれてきたものであり、九州国立博物館のように、あらかじめ両者を組み合わせる形で計画されてきたものというわけではありません。

しかしながら IPM プログラムを含む作品の保存環境整備の模索を繰り返すうち、当館の場合も九州国立博物館と同様、この支援活動が館の IPM プログラム遂行上、必要不可欠な存在になっていったという事実は興味深いことです。今回は、活動の内容も組織も異なる当館の取り組みを、九州国立博物館の比較事例として報告させていただきます。

国立民族学博物館における IPM の実践とその協力体制

園田直子(国立民族学博物館)、和高智美(合同会社文化創造巧芸)



園田直子



和高智美



国立民族学博物館(民博)では、文化人類学・民族学に関する調査・研究にともない、世界各地の民族資料を収集、所蔵しています。これらの資料はその材質や来歴を考えると、もっとも生物被害にしやすい博物館資料といえます。民博では、開館以来、さまざまな生物被害対策をとってきました。とくに 2004 年からは、IPM の考え方に則った活動を展開しています。ここでは、持続可能な IPM 活動に向けての取り組みを、実践にあたっての協力体制をまじえてお話しします。

九州国立博物館から市民と地域へひろがる IPM 支援活動

本田光子(九州国立博物館)、内田祥乃(九州国立博物館環境ボランティア)
立山左絵子(NPO 法人ミュージアム IPM サポートセンター)、下川可容子((株)タクト)



本田光子



内田祥乃



立山左絵子



下川可容子



九州国立博物館は自然共生型、市民協同型の文化施設を基本構想として計画され、建設中より IPM 活動をすすめて、ヒト・モノ・環境にやさしい博物館活動をスタートしました。こうした IPM 体制をシステム化するため、その一部に市民環境ボランティアや NPO 法人の参加を計画し実績を積んできました。NPO 法人の活動からは企業として支援業務を請け負う団体も生まれ、ミュージアム IPM を目的とする協同にむけて、地域に支援の輪がひろがりつつあります。

「ミュージアムIPM」の実践と課題

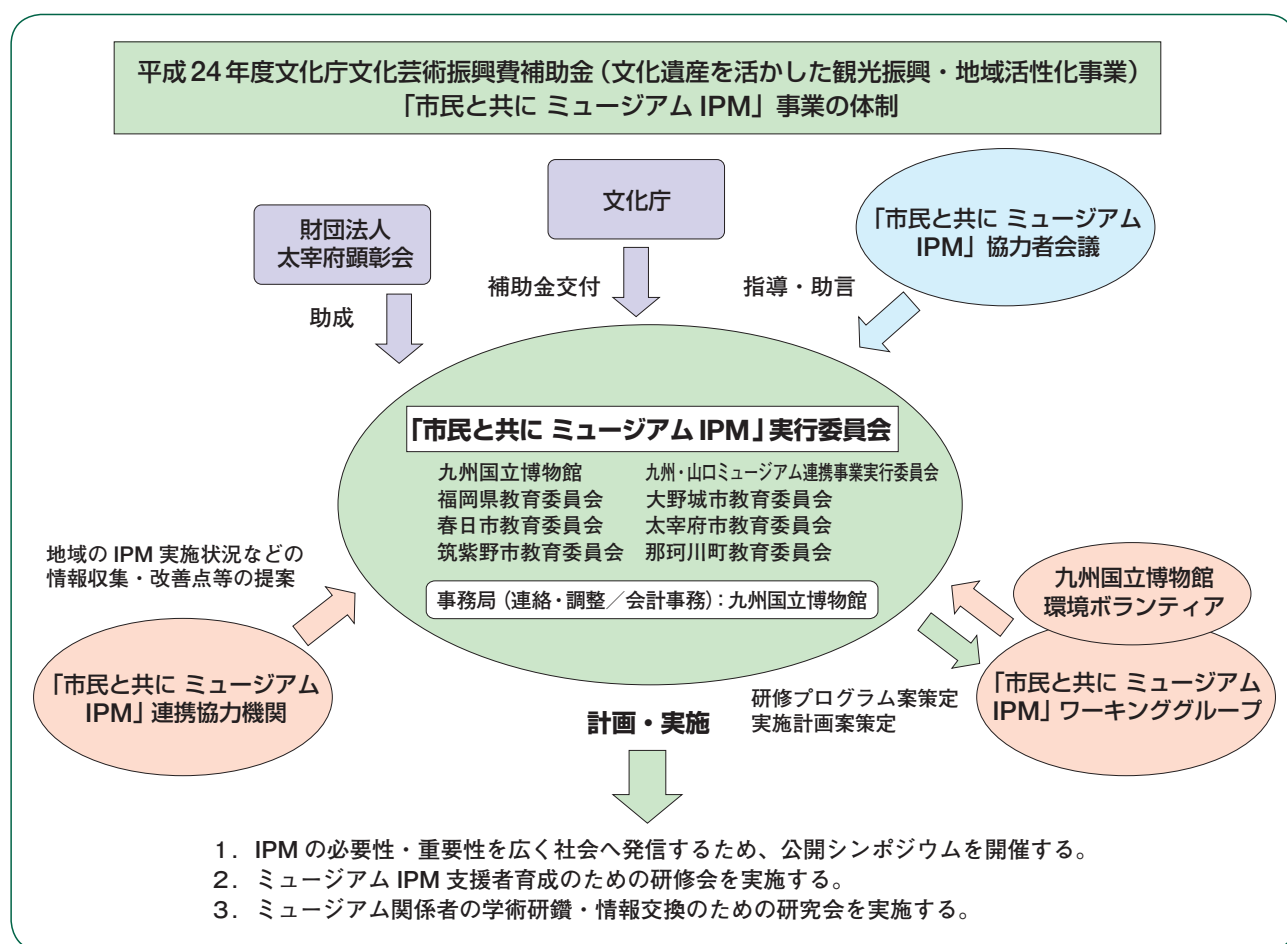
司会：本田光子(九州国立博物館)



井上理香(太宰府市文化ふれあい館)・上野知彦(九州国立博物館)・奥村俊久(筑紫野市教育委員会)・狩野啓子(久留米大学)・川越和四(イカリ消毒(株))・川浪千鶴(高知県立美術館)・日高真吾(国立民族学博物館)・松下久子(九州・山口ミュージアム連携事業実行委員会)・三浦定俊((公財)文化財虫害研究所)・村田眞宏(愛知県美術館)・森田レイ子(NPO法人文化財保存活用支援センター)

IPMの実践には、地域や組織の特色を活かした支援活動を組み込む「体制作り」をしつつ、ミュージアムの連携を図ることが望まれます。文化や歴史のあかしところを伝えるミュージアムは、生命や環境にも配慮した活動を支えに市民と共に発展したいものです。持続可能な社会に向けたミュージアムIPMを目指すために、市民参加や社会への発信も含めて、本事業が果たす役割と課題について考えます。

閉会挨拶 16:25~16:30 「市民と共にミュージアムIPM」実行委員会副委員長 森田 稔(九州国立博物館副館長)



主 催：ミュージアムIPM実行委員会(九州国立博物館、九州・山口ミュージアム連携事業実行委員会、福岡県教育委員会、大野城市教育委員会、春日市教育委員会、太宰府市教育委員会、筑紫野市教育委員会、那珂川町教育委員会)、九州国立博物館

連携協力機関：財団法人太宰府顕彰会、愛知県美術館、大分県立歴史博物館、九州歴史資料館、熊本市現代美術館、高知県立美術館、長崎歴史文化博物館、福岡県立美術館、福岡市美術館、太宰府市文化ふれあい館、筑紫野市歴史博物館、奴国の丘歴史資料館、九州産業大学美術館、九州大学総合研究博物館、久留米大学比較文化研究所、西南学院大学博物館、NPO法人文化財保存活用支援センター、NPO法人ミュージアムIPMサポートセンター

後 援：九州文化財国際交流基金、公益財団法人文化財虫害研究所、一般社団法人文化財保存修復学会、一般社団法人国宝修理装演師連盟、一般社団法人ミュージアム支援者協会、NPO法人文化財保存支援機構

お問い合わせ：「市民と共にミュージアムIPM」シンポジウム事務局(株式会社クバプロ内)
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋3-11-15 UEDAビル6F TEL:03-3238-1689 FAX:03-3238-1837 E-mail:ipm2012@kuba.jp